令和8年度

生比奈小学校

鼓　動

校長室通信

NO.5

2学期がスタートして1ヶ月が過ぎました。先日は、人権学習の授業参観と人権集会に多数の方がご参加いただきありがとうございました。

今回は私も、6年生で授業をさせていただきました。『どうすれば世界中の人々が幸せに生活できるのだろう?』という大きなテーマで学習を進めてきました。そして、この時間は「世界中の人々が幸せに生活するために、自分たちにできることはなにか?」という事を考える授業でした。

この答えとしては、様々な考えがあると思いますが、今回私は、「同じ人間として対等に接すること」が自分にできることだと伝えました。私たちは、どうしても自分と他者を比べてしまいます。そして、「あの人はいいな」とうらやましく思ったり、逆に「あの人よりはましだ」と優越感をもったりしてしまいます。そのような上下の感覚が差別を生み、ひいては国家間の紛争にもつながっていると思うのです。

例えば、食べ物も十分でなく、電気も通っていないアフリカの子どもたちは不幸なのでしょうか。こう聞かれたら、自分の生活と比べて考えると思います。そして、日本の子どもたちより不幸だと考えるかもしれません。しかしながら、周りの子に気をつかってありのままの自分を出せない子や人からどう思われているかが気になってビクビクしている子が日本にはたくさんいます。それに対して、物質的な豊かさは無くても、素敵な笑顔で友達と関わり、豊かな自然の中で自分で遊びを考えて楽しく生活しているアフリカの子もいます。幸せの基準は人によって違います。本人が幸せだと感じられれば、どこの国に住もうが関係ないと思います。あの人はどうとか、この人はこうだとか勝手な先入観を持たずに、同じ人間として対等な関係で接することが大切ではないでしょうか。

授業後の人権集会では、それぞれの子が考えた人権標語から3点を選び表彰をした後、①仲間をさがせ!　②輪くぐりゲーム　③風船バレー　の3つのゲームを行いました。輪くぐりゲームからは、参観されていた保護者も加わり笑顔がはじける楽しい集会となりました。







